

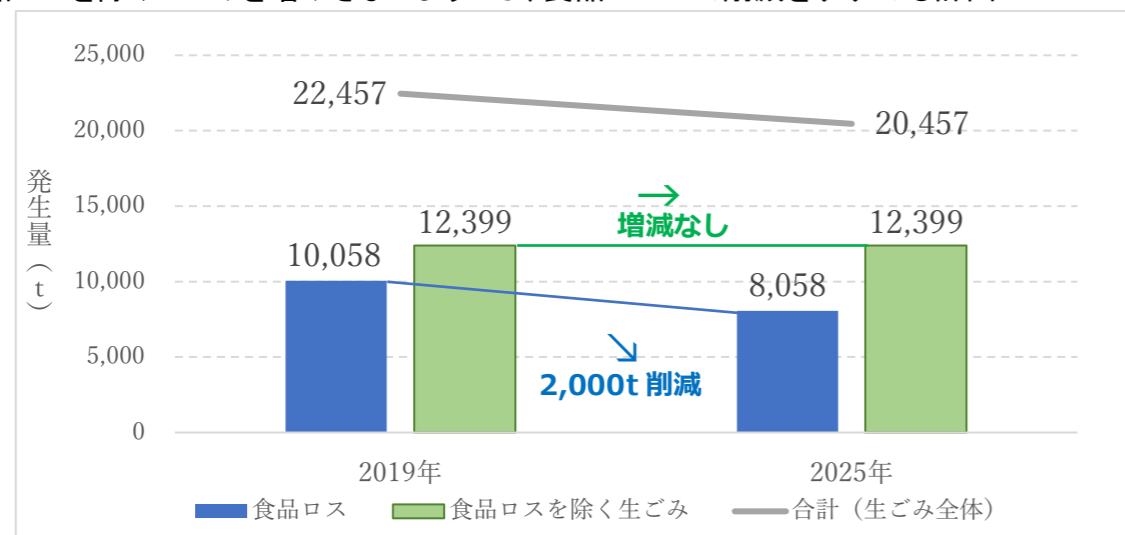
町田市食品ロス削減推進計画の目標と指標の整理について

1 家庭系生ごみに関する削減目標

計画	基準年度	目標年度	内容
第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン	2019年度	2025年度	生ごみ 2,000t 削減
町田市食品ロス削減推進計画	2022年度	2025年度	食品ロス 3,121t 削減
			食品ロスを除く生ごみ 256t 削減

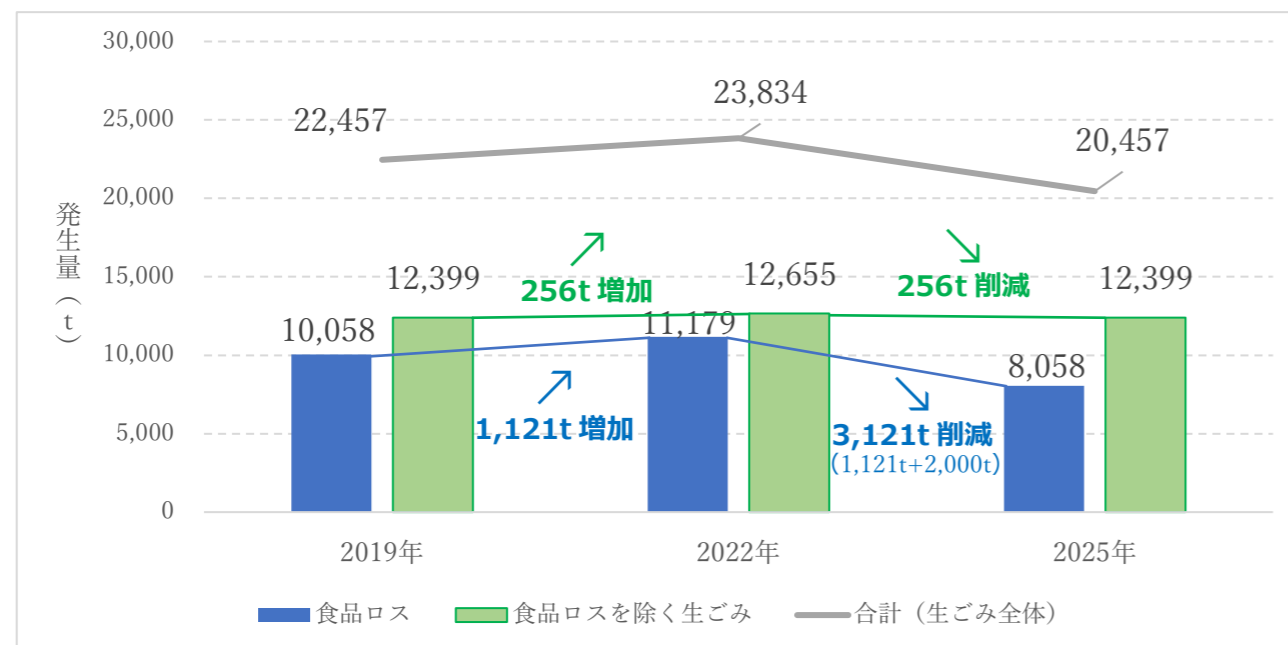
・第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン

→食品ロスを除く生ごみを増やさず、食品ロスにて削減をすすめる計画



・町田市食品ロス削減推進計画

→2022年度の排出実績を基準として、アクションプランの削減目標を達成するための「食品ロス」「食品ロスを除く生ごみ」の削減量をそれぞれ目標に設定



【参考】家庭系生ごみの発生量

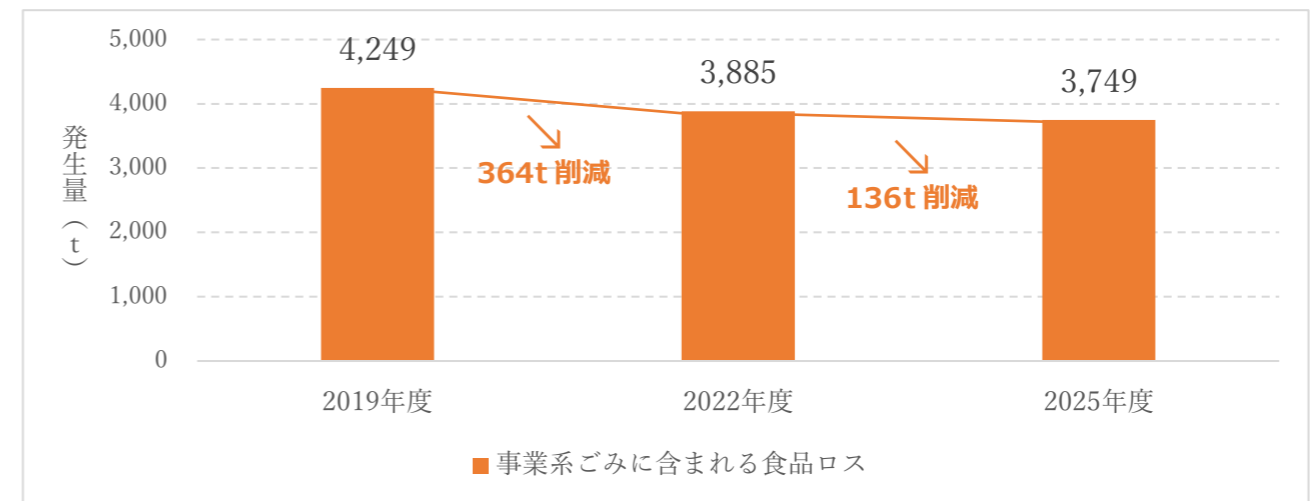
	2019年 (実績)	2022年 (実績)	2025年
食品ロス	10,058	11,179	8,058
食品ロスを除く生ごみ	12,399	12,655	12,399
合計	22,457	23,834	20,457

2 事業系ごみに関する削減目標

計画	基準年度	目標年度	内容
第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン	2019年度	2025年度	事業系ごみに含まれる生ごみ 500t 削減
町田市食品ロス削減推進計画	2022年度	2025年度	事業系ごみに含まれる食ロス 136t 削減

・町田市食品ロス削減推進計画

→2022年度の排出実績を基準として、アクションプランの削減目標を達成するための「事業系ごみに含まれる食ロス」の削減量を目標に設定



【参考】事業系食品ロスの発生量

	2019年 (実績)	2022年 (実績)	2025年
事業系ごみに含まれる食品ロス	4,249	3,885	3,749
削減量	—	△364	△500

町田市食品ロス削減推進計画 体系

2025年度までの削減目標 (2022年度比)		1世帯あたりの食品ロス発生量と到達目標 (削減41.66g/日)	発生要因毎の削減目標	行動例	主な施策	指標					
						発生要因別指標			共通指標		
						指標	現状値 (2022)	目標 (2025)	指標	現状値 (2022)	目標 (2025)
家庭系	3,121トン削減	年間・1世帯当たり 15.21kg削減 (54.47kg→39.26kg)	手つかずの削減 年間・1世帯あたり 6.54kg削減 (23.44kg→16.90kg)	【買物】 ・買い物前に家にある食料品の種類・量を確認する ・使う分、食べきれない量だけ買う ・バラ売りや少量パック、量り売りなどを利用する ・冷蔵庫・食品庫の整理整頓を行う 【調理】 ・食べる人の適量を把握して料理する ・残った料理を別の料理に作り替える (リメイクレシピの活用) 【保存】 ・食品ごとに適切な保管方法で保管する (冷凍保存の活用など) ・賞味期限、消費期限を把握し、期限切れが発生しないようにする ・備蓄食品を定期的に見直す、ローリングストックを心がける ・食べきれない食品はフードドライブを活用する	・フードドライブの拡大【新規】 ・事業者と連携したレシピの考案【新規】 ・食品ロスダイアリーの作成【新規】 ・エコ得レシピの紹介 ・防災備蓄の活用レシピ紹介 ・使いきり料理教室の実施 ・食育に関する取組との連携 (SNS、食育の日、食育月間、食育講演会、食育ボランティア) ・資源とごみの出前講座 【共通施策】 ・ホームページや広報紙、SNSを活用した普及啓発 ・イベントや講演会等での普及啓発	【手つかず】 食品を未開封のまま捨ててしまうことがある市民の割合	13.10% ※2023年度	10%	食品ロス削減対策を行っている市民の割合	58.50% ※2023年度	75%
			食べ残しの削減 年間・1世帯あたり 6.54kg削減 (23.44kg→16.90kg)	【買物】 ・使う分、食べきれない量だけ買う ・バラ売りや少量パック、量り売りなどを利用する 【食事】 ・食べることができる分だけお皿によそう ・出された料理は残さず食べる	・食品ロスダイアリーの作成【新規】 ・まちだ☆おいしい食べきりキャンペーン ・食育に関する取組との連携 (SNS、食育の日、食育月間、食育講演会、食育ボランティア) ・資源とごみの出前講座 【共通施策】 ・ホームページや広報紙、SNSを活用した普及啓発 ・イベントや講演会等での普及啓発	【食べ残し】 食品を使いきれず (未開封は除く)、もしくは食べきれず捨ててしまうことがある市民の割合	29.80% ※2023年度	20%	小学校、中学校、高校を対象にした食品ロス削減に関する環境教育の実施校数	35校	41校
			過剰除去の削減 年間・1世帯あたり 2.12kg削減 (7.59kg→5.47kg)	【調理】 ・果物や野菜の皮などは必要以上に除去しない	・事業者と連携したレシピの考案【新規】 ・食品ロスダイアリーの作成【新規】 ・エコ得レシピの紹介 ・使いきり料理教室の実施 ・食育に関する取組との連携 (SNS、食育の日、食育月間、食育講演会、食育ボランティア) ・資源とごみの出前講座 【共通施策】 ・ホームページや広報紙、SNSを活用した普及啓発 ・イベントや講演会等での普及啓発	【過剰除去】 調理の際には食材を使いきるようにし、食材を無駄にしない工夫をしている市民の割合	70.50% ※2023年度	90%	食ロス削減PRに関するイベントへの参加人数	1,200人	2,500人
事業系	136トン削減 ※新型コロナウイルスの影響により、削減目標達成に近づいているが、今後増加が見込まれる。			・来店者の希望に応じた料理の提供量の調節 ・小盛メニュー、ハーフサイズメニューの設定をする ・注文受付時に適量注文を呼びかける ・宴会実施時における「食べきり運動」実施の呼びかけを行う ・量り売り・ばら売りによる食料品販売を行う ・消費期限等を説明したうえで持ち帰り提供 ・残さず食べ切った場合に特典を付与する	・フードシェアリングサービスの導入【新規】 ・まちだ☆おいしい食べきり協力店の認定 ・てまえどりPOPの作成【新規】 ・てまえどりキャンペーン ・今が食べごろめしあがれキャンペーン ・まちだ☆おいしい食べきりキャンペーン ・フードバンクに関する情報提供 ・防災備蓄の活用、配布 ・食品ロスを考慮した保育園給食の提供 【共通施策】 ・ホームページや広報紙、SNSを活用した普及啓発 ・イベントや講演会等での普及啓発	指標	現状値 (2022)	目標 (2025)	指標	現状値 (2022)	目標 (2025)
		フードシェアリングサービス	未実施	1200食マッチング							
		食べきり協力店数	10店	100店							
						市民向け災害時用備蓄食品の配布率	14.90%	15.42%			
事業系 家庭系	256トン削減 食品ロスを除く生ごみの削減			・生ごみ処理機を使用する	・食品リサイクル施設の活用【新規】 ・生ごみ処理機等の活用促進 ・資源とごみの出前講座 【共通施策】 ・ホームページや広報紙、SNSを活用した普及啓発 ・イベントや講演会等での普及啓発	指標	現状値 (2022)	目標 (2025)	指標	現状値 (2022)	目標 (2025)
		食品リサイクル施設の活用	未実施	実施内容検証							
						家庭用生ごみ処理機の補助台数	累計1,525台	累計2,000台			

その他、食品ロスを含む生ごみの有効活用